
2017年度第1回

郵博 特別切手コレクション展

郵便制度史展 2017

展示作品解説パンフレット



主催

郵政博物館、NPO 郵趣振興協会

展示団体

郵便制度史展実行委員会

後援：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

協賛：特定非営利活動法人日本郵便文化振興機構

開催日時

2017年4月21日（金）12:00-17:30

2017年4月22日（土）10:00-17:30

2017年4月23日（日）10:00-17:30

会場：郵政博物館

展示作品一覧

カッコ内の数字は展示フレーム数です

第1種・第2種・書留郵便 (1883-1966) (8) 片山七三雄

郵便種別の基本である、第1種、第2種、及び特殊取扱の基本である書留の1883年～1966年の間で料金の変遷、並びに第1種、書留の取扱・制度の変遷を示します。

内国葉書の郵便史 (5) 吉田敬

日本の郵便制度の流れを葉書というフィルターを通して眺めた通史コレクション。

金子入り郵便 (3) 石川勝己

従来の信書による送達に加え、通貨(金子)の送達を「金子入り制度」で実施することになった郵便を展開した作品。

現金取立(集金)郵便史 (3) 町屋安男

商業上の金銭貸借等を郵便為替により現金で取り立てる郵便制度で、取立成功例と失敗例の双方を展開した作品。

強制送達郵便制度 (5) 渡辺藤人

訴訟及び特許事務関係書類を郵便局が強制送達した訴訟・審判書類郵便について、創設期から現行までをまとめた作品。

別配達制度からの急速送達郵便 (4) 小林富士夫

他の郵便物より優先して送る急速送達郵便について、初期の別配達から速達導入後の大正・昭和期まで展開した国内展金銀賞作品。

日本の軍事郵便 (5) 森下幹夫

召集された一般庶民が手紙を書く契機となったといわれる軍事郵便を、軍隊の派遣地域・組成・編隊名などから展開した作品。

昭和41年7月1日の郵便大改革 (5) 行徳国宏

日本の郵便制度上、大きな転換点と位置づけられる昭和41年7月1日施行の郵便規則改正を郵便大改革ととらえ、その特色を直前期の例と比較して展開した作品。

第1種・第2種・書留郵便(1883-1966)(8)

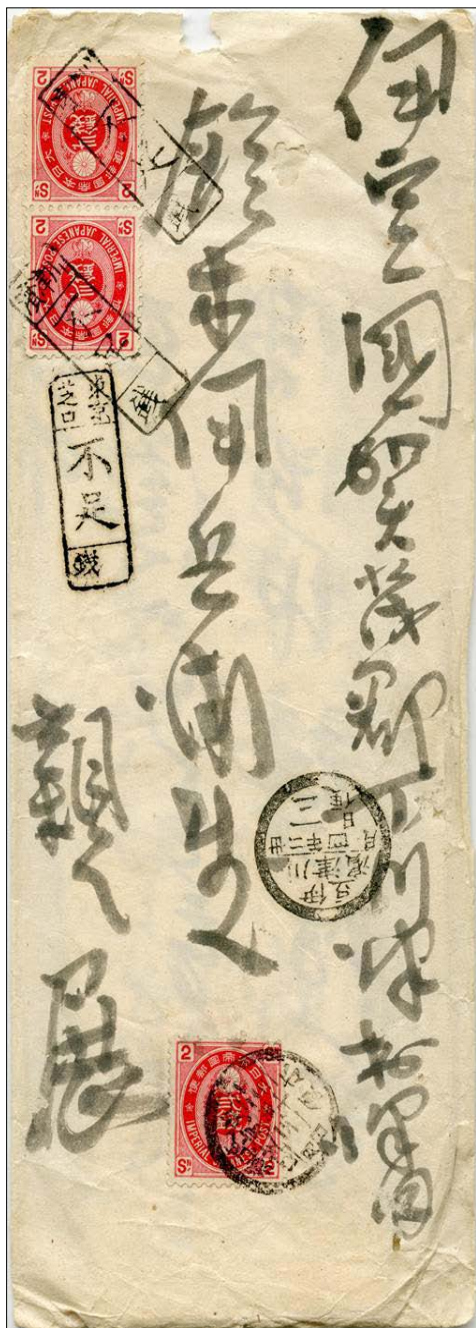
片山 七三雄

郵便種別の基本である、第1種、第2種、及び特殊取扱の基本である書留の1883年～1966年の間で料金の変遷、並びに第1種、書留の取扱・制度の変遷を示します。

「郵便料金の変遷(第1～第3フレーム)」では、第一種・第二種は原則サドル便と初日便、書留郵便は原則最終日と初日を同一リーフ上で示します。また、当局が作成した料金改正のチラシなども可能な限り含めます。

「取扱・制度」面では、「第一種郵便(第4～第5フレーム)」を、郵便種別が定義された郵便条例に始まり、第一種郵便の重量が改正された場合に起こることや当初は第一種以外で開始された例が1966年の定形制度開始時まで第一種に統合された歴史を示します。

「書留郵便(第6～第8フレーム)」では、記録郵便一般に当てはまる取扱などの変遷を可能な限り網羅的に展示します。



内国葉書の郵便史（5）

吉田 敬

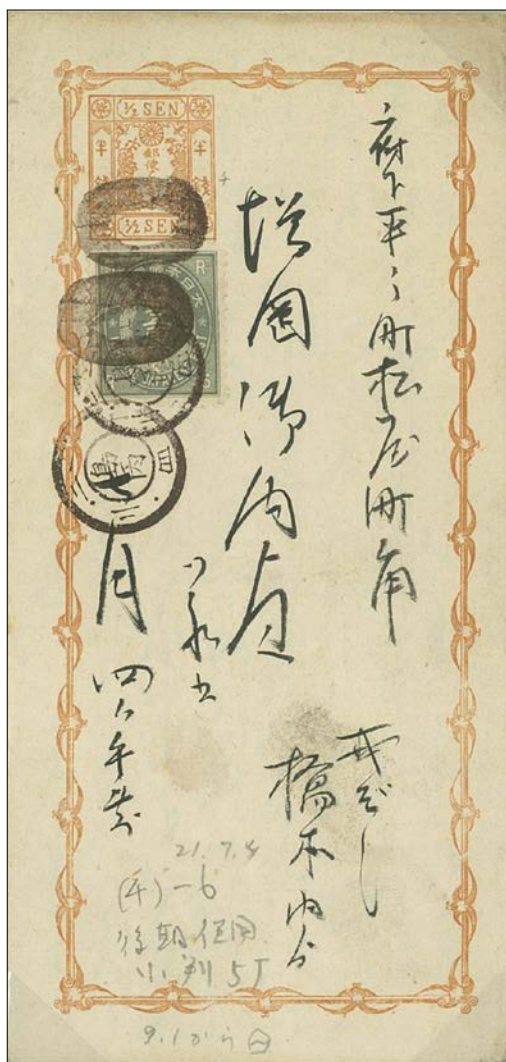
「葉書」は、今から143年前の明治6年12月1日（1873年）に導入された郵便種別です。

当初の郵便料金は市内：½銭、市外：1銭、ただし、不便地はさらに1銭加算というものでしたが、その後17回の料金改訂を経て現在は52円となっており、18回目の料金改訂をこの6月に控えています。

本展示は、葉書を18の料金に区分した上で、それぞれの料金時期ごとに、初期及び後期使用や、特殊取扱、特別料金の設定や各種トピックスを紹介したコレクションです。展示スペースの関係で今回は郵便料金15銭時期までを展示しています。

図は、明治22年に使用停止になる二つ折り葉書の後期使用例。

島之内、明治21.7.4



金子入り書状の変遷と変態（3）

石川 勝己

金子入り書状は、お金を送るといふ機能は同じでも、現在の現金書留の制度とは似ても似つかぬ制度です。

従って、現金書留の感覚で考えるとその性格を正しく理解することはできません。郵便局は受付だけを行い、実際の通送配達は陸運会社が行いました。つまり郵便ではないと考えてください。

料金は、重量に合わせた郵便税と陸運会社の取り分である通送料と受取時に徴収する手間賃の配達料の3つを考えする必要があります。反対に、この三つを考えれば金子入り書状は簡単に理解することができます。

この作品では、送金という面に焦点を当てて、飛脚から陸運会社、郵便との提携、全国展開、料金などの変遷、現在の現金書留の発端までのあらすじを示しています。



現金取立 (集金) 郵便史 (3)

町屋 安男

郵便事業は信書や物件の送達にとどまらず、現金の取立としても機能しています。現金取立郵便は、差出人の委託する証券によって郵便局が受取人から現金を取立する制度です。

現金取立郵便は、郵便集金制と共に集金郵便制度に統合されました。40年にわたる現金取立・集金郵便（明治33年10月1日～昭和15年11月15日）を郵便料金期間で4区分して、委託書・受領書・証券・振替郵便集金書等の使用例で全体像が分かるように展示してみました。

現金取立委託書 (郵便第八十四号・松永納) 現金取立料5銭 菊切手5銭

書 託 委 立 取 金 現				種 券 類	額 金 總 立 取	氏 名 所	債 務 者 ノ 氏 名 所	委 託 者 ノ 氏 名 所	番 號	引 受	
月	日	日	日	四 円	一 金 四 圓 也	松 浦 茂 二 郎	海 馬 奴 魂 亂 坂 町	山 梨 叔 西 代 亂 齋 お 生 月 七 左 衛 門	取 立 券 記 音 號	菊 切 手	
金	金	金	金	額	取 取 日 立	印	日	付	受		
(松永納)								郵便第八十四號			

甲斐/岩間・明治35年9月1日ハ便

今までに確認されている現金取立委託書の最初期使用例である。
当初の金額制限は300円以内であったが、明治40年3月28日の
逓信省令第6号によって同年4月1日から千円以内に引上げられた。

強制送達郵便制度（5）

渡辺 藤人

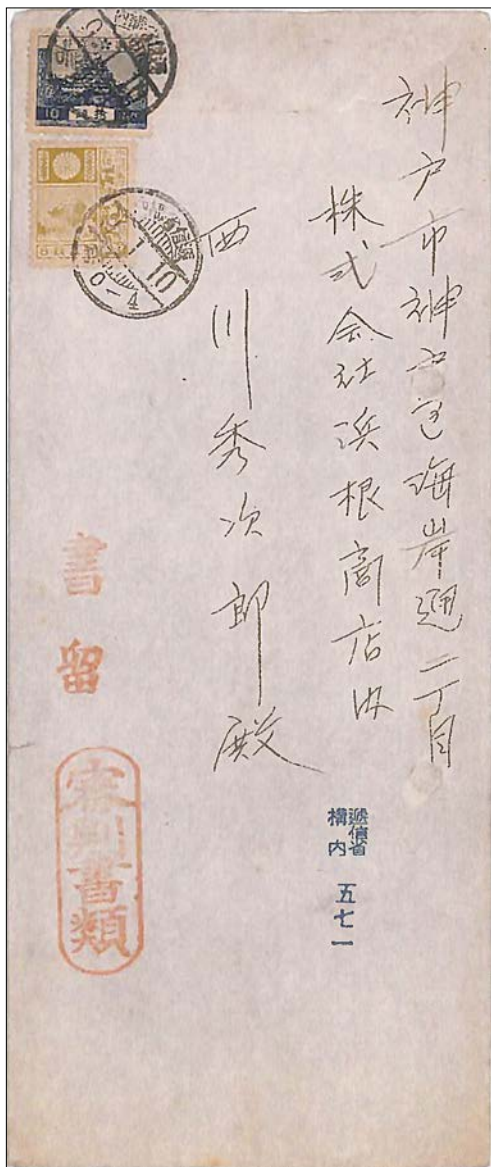
日本の強制送達郵便（受取拒絶ができない郵便）制度は、明治24年に訴訟書類の送達が制度化されたのが始まりで、差出は法律により限定され、主に裁判所から差出されました。

その後、審判書類・審査書類等がこの制度に加わりました。昭和23年の郵便法施行により特別送達に統一され現在に至ります。

第2次大戦終戦前には法域の異なる4外地（台湾・関東州及びその管轄地域・朝鮮・南洋）でも民政移管後に順次取扱いが開始されました。法域をまたぐ訴訟書類に関しては司法事務共助法が順次施行され、送達が行なわれるようになりました。

今回は制度開始当初から現在に至るまで、郵便物を主体に関連マテリアルを含めて時代順に展示しています。

その中で外地差出・司法共助法適用使用・差置送達（強制送達）・重量便・特殊取扱いの使用例を織り交ぜています。



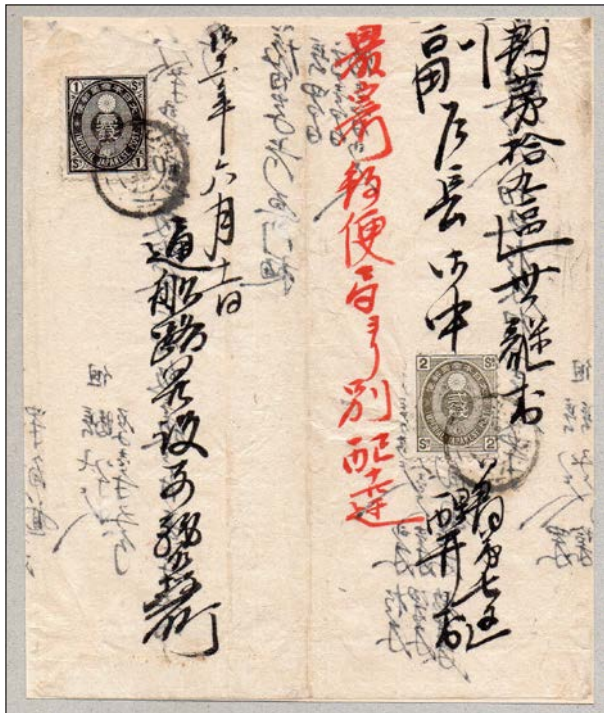
別配達制度からの急速送達郵便（4）

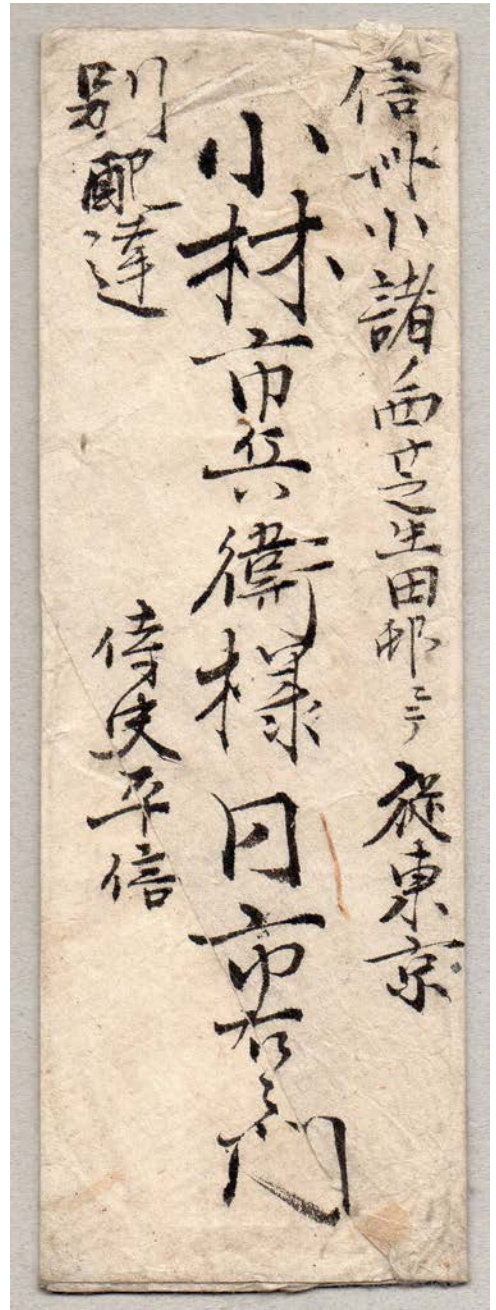
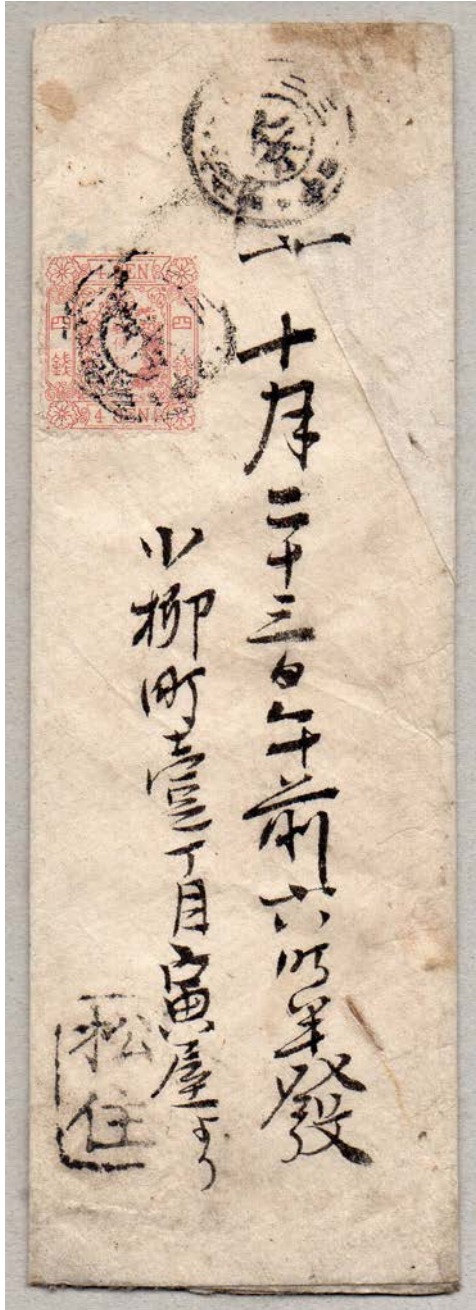
小林 富士夫

郵便創業（明治4年）と同時に、東海道筋の郵便役所において、迅速な配達を行う「別仕立」が付帯サービスとして開設され、郵便役所より配達距離1里毎に600文の料金で、急速送達取扱が始められた。その後、別段急便、別便の制度を経過する。

そしてほぼ全国に郵便路線も行き渡り、距離制郵便料金から均一郵便料金に規則改正された明治6年に「別配達」「別仕立」併用の制度を確立、急速送達郵便の制度が定着する。

本展示は、別配達制度が始まった明治6年から、その後の「速達郵便」制度への移行、全国への普及と速達料金一本化、その料金の終焉する昭和41年までの急速送達郵便制度の変遷と進展を、明治期は別配達制度を、明治44年速達郵便制度開設後は速達郵便制度を体系の柱に、郵便の種別を選択し構成する。





日本の軍事郵便（5）

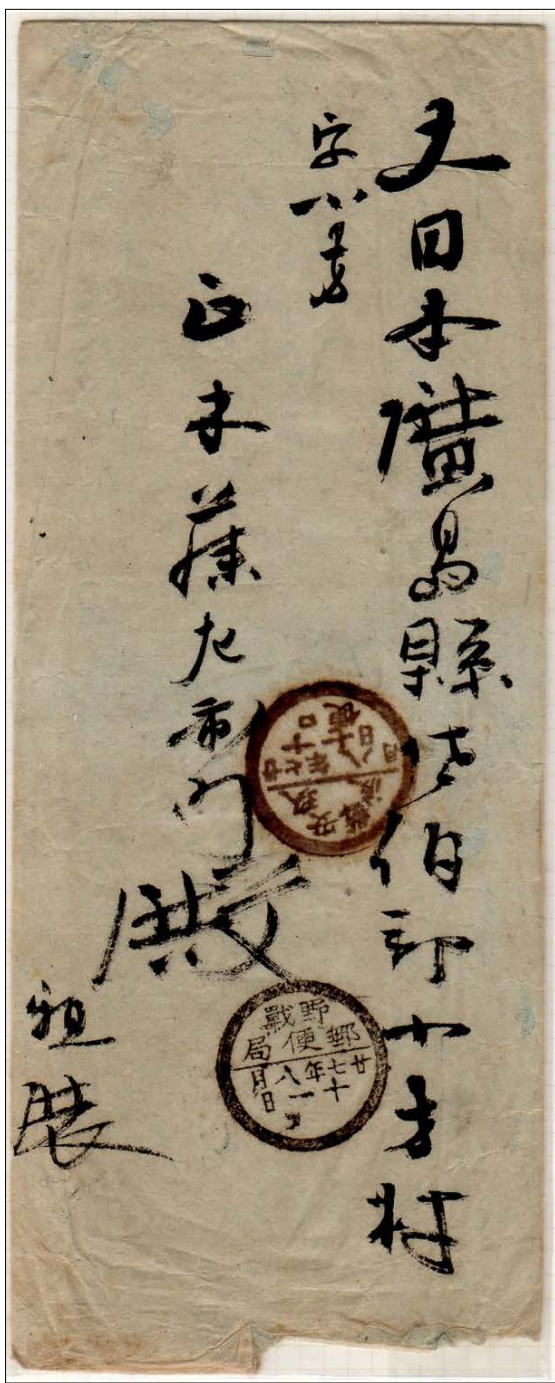
森下 幹夫

日本の軍事郵便制度は、明治27年6月の勅令により、日清戦争に動員された兵士のために創設されました。その後、日露戦争や日中戦争などの戦争を経て、太平洋戦争が終結される昭和20年まで存続しました。

今回の展示は、その日清戦争から太平洋戦争までの約50年に亘る軍事郵便を通史的に紹介したものです。

戦地からの軍事郵便は基本的に無料で切手貼付がなく、郵便料金の改定に影響されないため、郵便制度史作品としては表現し難い部分ではありますが、軍事郵便ならではの野戦局印など、興味深い郵便印も多くあります。

日中戦争以降は郵便印のない軍事郵便が一般的ですが、この作品は、郵便印にも着目した構成となっております。



昭和41年7月1日の郵便大改革(5)

行徳 国宏

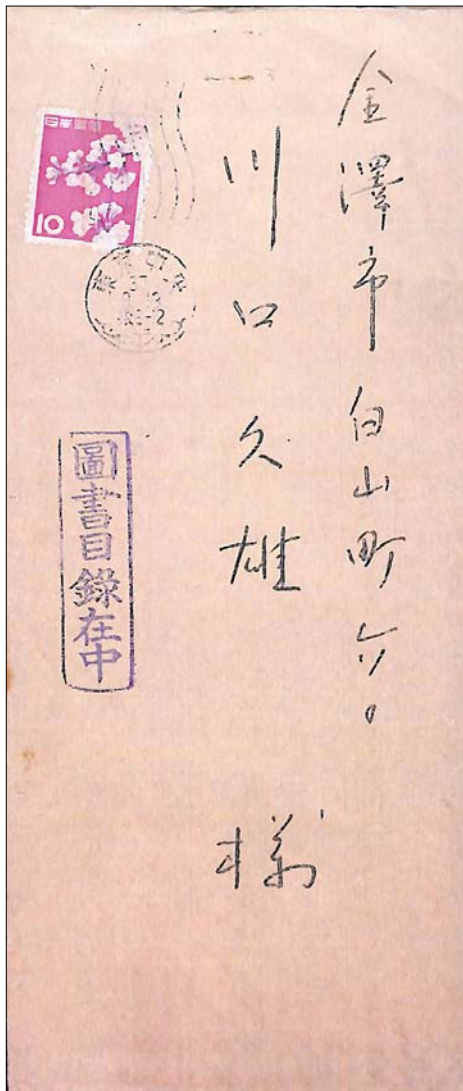
郵便創業以来、郵便物は同封される内容物によって信書と信書以外に分けられ、郵便料金は封筒の形状に関係なく重量ごとに増料金を加算する体系であった。

昭和41年7月1日の改正では、郵便物に同封される内容物に関係なく不当の寸法を定形と定形外とに分け、定形料金を低廉に、定形外を重量段階別に割高料金に設定した。封筒の寸法によって郵便料金体系を定めたことは、郵政省によれば、「郵便創業90年来の初めての改正(形状改革)」であった。

増大する郵便物のうち小型封筒を機械印によって引受けるため、日本電気社のN1型書状自動押印試作機が開発され、その後N2型とN3型が改善されて、N4型機22台が昭和41年に納入された。

N型書状自動押印機については、これまで調査研究・発表されてこなかった。そこで作品には極力N型機械印の実例を取上げ、この機械印の存在・押印機の実際を展示した。

図は、桜10円貼り機械印 N3型書状自動押印機



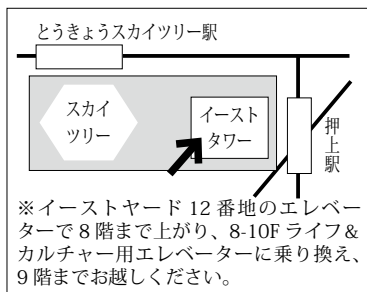
郵博 特別切手コレクション展

1902年(明治35年)に開館した「郵便博物館」に
その起源を遡る「郵政博物館」で開催される特別展です

2017年度に開催予定の特別切手コレクション展一覧

開催期間	特別展名
4/21-23	郵便制度史展 2017 ポスタル・ヒストリーのメイン・ストリームを織りなすコレクションの数々
5/13-14	沖縄本土復帰 45 年記念展 戦後 1972 年まで沖縄で独自に発行された「沖縄切手」コレクションが大集結
6/3-4	昭和切手発行 80 周年記念展 「昭和」の最高峰コレクションが揃い踏み
10/7-8	日本の記念特殊切手コレクション展 記念特殊切手の製造・発行・使用面を研究するグループの結成 10 周年記念特別展示
11/11-12	「心をつないだ年賀郵便の歩み ― そして未来へ」展 送り手の真心と郵政マンの努力の結晶「年賀郵便」の歴史を紐解く
12/9-10	第 5 回ヨーロッパ切手展 ヨーロッパ切手の本格コレクションが勢揃い
2018 年 2/3-4	第 1 回いずみ切手研究会展 わが国郵趣グループのトップ・ランナーの実力がここに明かされる
2018 年 3/3-4	安藤源成コレクション展 フィラテリー 70 余年の軌跡と名品の数々を含む円熟コレクションを一堂に

特別切手コレクション展の開催時間は原則として午前 10 時～午後 5 時半ですが、初日だけ 12 時開始になる事が多いので、ホームページでご確認の上、お越しください。



郵政博物館への行き方

所在地 東京スカイツリータウン・ソラマチ 9 階
※イーストヤード 12 番地のエレベーターで 8 階まで上がり、8-10F ライフ & カルチャー用エレベーターに乗り換え、9 階までお越しください。

最寄駅 押上駅(東京メトロ半蔵門線、都営浅草線、東武スカイツリーライン、京成押上線)、とうきょうスカイツリー